

令和2年度 事業報告書

(第29期)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

(設立許可 平成3年12月20日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
大阪府枚方市招提田近1丁目9番地

令和 2 年度 実施事業の概要

本年度は、令和 2 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 1,641 万円、予算額 1,856 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、令和 2 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 25 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その審査結果を事務局にて集計し、連絡会議にて検討の上、選考委員会の推薦案がまとめられ、12 月 1 日の第 2 回理事会にて受贈者が決定した。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策の観点から贈呈式の開催は行わないことになった。

1) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

KONA 賞については本年度も、3 年前から開始した、国内に限定しない候補者の推薦を得るために、KONA 誌の国際的な編集委員会体制を活用して広く世界から募集した。その結果、国内外から 4 件(4 名)の推薦があり、選考委員会で承認された 10 名（日本人 4 名、アジア・米国・欧州ブロックからそれぞれ 2 名）の KONA 賞審査委員による採点結果を基にして選考委員会で選考され、理事会にて承認を得た。その結果本年度は、フロリダ大学の Prof. Brij M. Moudgil に、“Interfacial Engineering of Particulate System for Enhanced Performance”の業績に対して KONA 賞の授与が決定された。授賞式は、令和 2 年 9 月に東京での第 54 回粉体工学に関する講演討論会で行われることになっていたが、同講演討論会が延期となったために本年度は実施されなかった。

2) 研究助成（助成金採択額 1,000 万円）

本年度の応募数は 102 件となり 100 件は超えたものの、昨年度(119 件)よりも 15%程度少なくなった。その中から昨年度より 2 件多い 12 件の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度の採択率は昨年(8.4%)から 11.8%に増加した。

3) 研究者育成のための援助（援助金採択額 300 万円）

本年度は 20 件の応募があり、これらの中から選考委員会で 10 件が推薦され、第 2 回理事会にて承認され、採択者が決定された。本年度は採択者の中の外国人留学生は、ベトナム、タイ、中国、ナイジェリアからの 4 名となり採択者全体の 4 割を占めた。

4) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 100 万円）

シンポジウム開催援助については、本年度は 2 件の応募があったが、粉体工学に関係の深い 8th Asian Powder Technology Symposium (第 8 回アジア粉体工学シンポジウム) APT2021 が選考委員会で選定され、第 2 回理事会で承認された。

II. 特定事業（実施額 0 万円、累計積立額 750 万円）

1) 特定事業の見直し

本年度は講演討論会や贈呈式の延期や中止等により、支出が大幅に削減されたため、第 3 回理事会、ならびに第 2 回評議員会にて特定事業の見直しが検討された。その結果、公益財団法人に要請される財務指標を維持しながら、粉体工学の発展に資するような原資の有効活用を目指して、設立 30 周年特定事業の名称は維持しつつ、その内容と期間、予算額を見直すことになった。

これにより、令和 2 年度は取崩しはないものの、600 万円の積み上げを行い、令和 3 年度に APT2021 での Young KONA Award の贈呈支援と、令和 4 年度の設立 30 周年記念講演会に加えて、新たに令和 5 年度に、第 4 回国際ホソカワ粉体工学シンポジウムをドイツで開催する計画が承認された。

III. 財団自主事業（実施額 798 万円、予算額 1,288 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 75 万円、予算額 547 万円）

第 54 回粉体工学に関する講演討論会を、令和 2 年 9 月 15 日に東京ガーデンパレスで開催の予定であったが、コロナ禍の影響により 1 年程度延期することが第 1 回理事会で決定した。そこで、講演内容と講師、ならびに会場は変えずに、令和 3 年 9 月 7 日にこの講演討論会を開催する計画を立て直し、関係者に連絡を取り、了承が得られている。令和 3 年度の開催については状況をみながら対応していくことになっている。なお、本講演討論会の企画については、第 55 回の講演討論会も視野に入れて、粉体技術談話会（会長 鹿毛浩之 九州工業大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA Powder and Particle Journal」の発行（実施額 723 万円、予算額 741 万円）

本年度は、合計 18 件の論文（アジア 8 件、欧州 4 件、米国 5 件、自由投稿 1 件）を掲載した No. 38 (2021) (288 頁) を 900 部印刷し、令和 3 年 1 月 10 日付けで出版して、国内外の読者、大学、図書館等の関係者への発送を行うと共に、同日財団ホームページに出版の案内を行い、Web ジャーナルも掲載した。本号より全論文 PDF ファイルを対応 DOI にリンクし、全表をカラー電子化し、大半をカラー印刷、他は白黒版に適化したフォームで印刷し出版した。

令和3年1月25日にアジアブロック編集委員会を開催し、次号 No. 39(2022)以降の出版に向けて、新たに13件の推薦論文の提案があり、昨年度に未掲載の推薦論文を含めて、順次執筆可否の問合せを進めた。なお、本誌は、日本科学技術振興機構（JST）によって運営されているオンライン学術誌データベース J-STAGE に2013年から掲載されている。これによって、本誌の日平均利用件数は加入当時（2013/12/20）の約100件から1000件を超え、通算利用件数は162万件ほどとなっている。そして、本誌の評価指数として、Web of Science のIFは2.326（前年1.553）と大幅に向上し、Scopus のSJRは0.465（前年0.426）と若干の向上がみられた。また、同機構の支援を受けたオンライン投稿査読システム（EM システム）の本運用を2017年から開始しているが、本年号では1件の論文以外はすべてこのEMシステムにより入稿し、すべての論文を印刷物出版の前にJ-STAGEにて早期掲載を行った。

IV. 年報の発行（実施額69万円、予算額100万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 27(2019)は、令和元年度の活動状況報告を中心としたもので、平成29年度研究助成成果報告21件と平成30年度研究者育成のための援助成果報告10件、ならびにシンポジウム開催報告1件を掲載し、令和2年5月に発行した。なお、当財団の年報は平成21年度以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。平成28年度に科学技術振興機構からの支援を受けて当財団の年報がJ-STAGEに登載されることになり、平成29年に初めて年報 No. 23(2015)を掲載し、それ以降これまでに No. 12(2004)までのバックナンバーを掲載している。

以上